



シリーズ

知的財産って、なんだろう？

ポスターを 理解するためのポイント

①～③のポイントについて解説します。

① 小さなアイデアから生まれる、 大きな発明。

「発明」や「特許」と言うと、自分たちの生活とはかけ離れたものというイメージを持つ人も多いでしょう。しかしどんなに偉大な発明も、最初は発明家が抱いたアイデアから出発することが多いのです。暮らしのなかで感じる不便や「あったらいいな」というちょっとした気持ちが発明の源なのです。ポスター表面では、そうした小さな工夫から生まれたユニークなグッズを紹介しました。どの商品も、便利だけでなく誰にでも使いやすい「ユニバーサルデザイン」で、リサイクルのしやすさなどで環境にも配慮している点がポイントです。人にも地球にもやさしいモノを使いたい。そんな思いから、また新たな発明品が生まれてくるかもしれません。

② 新しいアイデアを守る 「知的財産権制度」。

苦勞して考えたアイデアや、それを活用することで生まれる利益を、法律によって守るのが知的財産権制度です。「知的財産権」とは、技術などに関する「産業財産権」と文学などに関わる「著作権等」の総称で、保護する対象別にさらに細かい権利が設けられています。こうした制度のおかげで発明者は安心して新たな創作活動に取り組み、私たちがその成果を普段の生活のなかで利用することができます。発明が身近なものであるように、知的財産権制度も暮らしのさまざまな場面に関わる大切なしくみなのです。

はっぴよん通信 考えよう! 知的財産 Vol.5

日本弁理士会
TEL:03-3619-2361 FAX:03-3619-988

***カドケシ**

「えっ? これが強しゴム?」
かたで滑ると滑しやすい—
だったらお茶を飲む
つくりばいい、という発想。

普通の滑しゴムは張力が弱く滑り過ぎて飲み込み、小さな文字などを滑すときに不便を感じることがあります。カドケシは凹凸の滑り止めがあるため、使い続けると凹凸が滑しやすくなるように作り、大変便利ですよ。

***取っ手付きチューブファイル**

定番アイテムを見なおしてある。
「取り出しやすい」「運びやすい」や、
直感的につかめるデザインがポイント。

チューブファイルは大量の書類を収納し、棚などに並べた状態で取り出すことが多く、取り出しにくいのがデメリット。そこで、手軽に持ち運びできるサイズを想定し、取り出すときにその内側に取っ手をつけて、簡単に取り出すことができます。

アイデアが商品になるためには、
様々な人の努力が必要なんだ。

***ブニョブニョ**

「手や指に針が刺されると痛い」
「靴の裏に刺さった」という
経験から生まれたアイデア。
ネーミングもとても大切。

針の先がプラスチックでカバーされているので、針が刺さると痛いという経験から生まれたアイデア。ネーミングもとても大切。

針の先がプラスチックでカバーされているので、針が刺さると痛いという経験から生まれたアイデア。ネーミングもとても大切。

※さっそくアクセスして、もっと調べてみよう! >>> <http://www.jpaa.or.jp/tanteidan/index.html>

③ 産業財産権を通じて 社会を支える「弁理士」。

産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)は特許庁が管理するもので、出願・審査・登録という手続きを経て初めて権利として認められる決まりになっています。産業財産権は主に新しい技術を扱うため、手続きには法律と技術に関する専門知識が必要です。このようにアイデアを権利にする過程で、専門的な見地からアドバイスしたり、手続きを代行したりするのが弁理士の主な仕事です。弁理士は、研究者や企業の権利を守ることにより新たな技術の普及を促し、私たちの社会の発展をも支えているといえます。

1 ※このページをコピーしてお使いください。

